

山寺通信 3月号

お茶の事がわかっている人達は、どのくらいいるのでしょうか。お茶ドリンクを飲んでもリーフのお茶とは異質な感じがします。本来の茶の味と違うとつくづく思います。それでも一般にはお茶で通ります。リーフのお茶を飲んでもらえばわかると思いますが、今の環境では難しいことです。簡単に急須でお茶を飲む状況を造りだせませんし、紙コップに入れて飲んでもらっても普段お茶を飲まない人達を説得するのはなかなか難しいです。まず頭の中にお茶のイメージを作ってもらわなければならないでしょう。そのために今回も多少なりとも興味を引いてもらえるようなポスターを造りました。お茶の伝来や禅、喫茶去これらの言葉を見た人達も多いと思いますが、その意味まで知っている人は少ないと思います。現在はまだこれらの言葉が残っています。知識の断片が残っているうちに知識の補強をするのが必要です。専門店が売店から脱皮するには、消費者の意識や情報、お茶に対する認識とレシピのようなソフトの部分が必要ではないでしょうか。茶の種類と情報発信の展開そして道具の提示。

春の新作清水焼・有田焼・瀬戸焼



清水焼夫婦 63-001 ¥5000 清水焼夫婦 63-002 ¥6500
7.5/H8cm 大 7.5/H8.8 小 7/H7.5cm



有田焼
63-003 青①赤②各¥1000 63-004①②各¥1200 63-005
9.8/H8 8/H8 7.5/7.5 ①②各¥1300 8/8 7.5/7.2



瀬戸焼 有田焼 瀬戸焼
63-006 ¥1600 9/H9.5 63-007 ¥2400 9/9 63-008 ¥1200 8.5/8.5 ポスターA3 サイズ内容 禅とお茶と茶器



63-009 ¥1500 3-0015 ¥1400 63-0016 ¥1400(8/8cm) 青海波夫婦 63-0012 ¥6500 織部 63-0013 4000

ポスターは、注文の時お申しただけければ荷物の上部に入れます。

緑茶と文化

禅宗から広まったお茶 世界が注目するお茶の深み

800年前に南宋の禅寺から日本に伝わったお茶

日本から南宋の禅寺に渡った修業僧が禅宗とお茶を持ち帰った

西洋人が憧れる自然と融合する東洋哲学

「茶禅一味(ちゃぜんいちみ)」「茶と禅は同じもの」 禅文化と茶文化

「喫茶去(きつさこ)」「まずは、お茶を飲んでください」 趙州(唐代禅僧 778-897)

問答の中に意味が入っている 個々の人の解釈により深まります

日本でお茶を普及させた禅僧とお茶

榮西禅師(1141年・215年) 福岡

「八女茶」がブランド化している

明恵上人(1141・215) 京都

「宇治茶」茶の湯 京の都の文化 抹茶

聖一国師(1202-1280) 静岡

「静岡茶」近代のお茶の発展に貢献

茶は薬草・座禅の前に気持ちの安定・長期修業の覚悟のために飲まれた

中国の急須と製法



最初に作られたと言われる供春作 1530年頃



価格は、屋敷1件分。日本の陶工は、この高価な急須を作ろうと挑戦した。

室町時代に輸入された急須



叩いて作る製法

日本の急須の製法



万古焼 木型に粘土貼り付け 左の部品1個づつ外して生地を作る



木型一式 分解写真



温故焼宝瓶



温故焼宝瓶



常滑轆轤製法

明治期木型で作られた急須 近代急須の先駆け(明治)

常滑轆轤製法

中国の急須が、木片で叩いて作る製法だと日本では分らなかった。それは、とてもまひまのかかるもので、中国では技術の継承が主要な目的になった。日本の陶工達は、創意工夫で独自の製法を確立した。茶葉の製法の進化と共に技法の効率化と品質向上を目指してお茶が手軽に飲める道具に改良した。